



1 気象概況（8月前半：果樹研究所）  
 平均気温は、1半旬が29.3℃で平年より3.4℃高く、2半旬が28.2℃で平年より2.5℃高く、3半旬が26.6℃で平年より1.1℃高く経過しました。  
 この期間の降水量は13.0mmで平年の19%、日照時間は110.7時間で平年の112%でした。

2 土壌の水分状況  
 8月15日時点の土壌水分（pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmで2.9、深さ40cmで2.7、深さ60cmでは2.7となっており、乾燥傾向にあります。

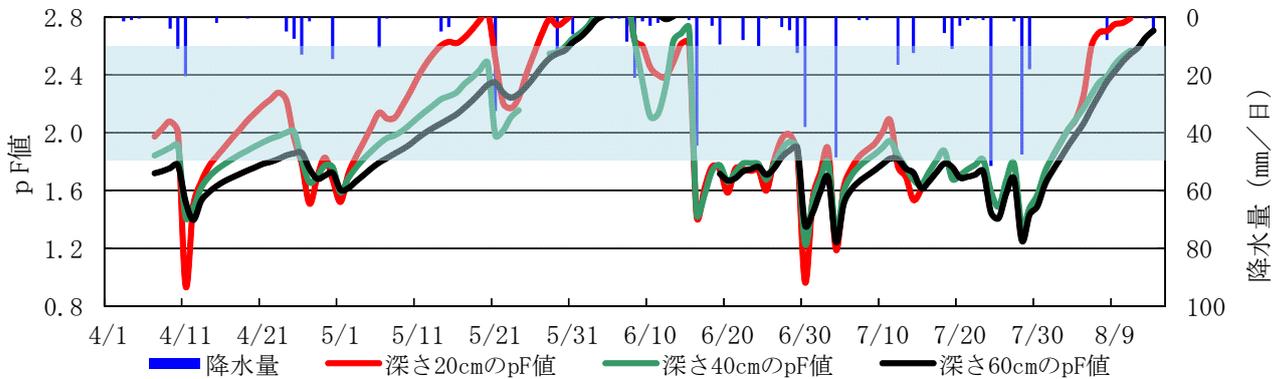


図1 土壌pF値の推移（果樹研究所なしほ場：草生・無かん水）  
 図中の網掛け部は、適湿の範囲（pF1.8-2.6）を示す

3 生育状況（8月15日時点：果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大

暦日比較では、「ゆうぞら」は縦径が73.0mmで平年比112%、側径が78.8mmで平年比116%と平年より大きく、生育日数による比較でも、平年より大きい状況です。

イ 新梢生長

満開後110日における「ゆうぞら」の新梢生長は、新梢長が平年比150%と長く、展葉数は平年比116%と平年より多い状況です。葉色は平年比97%であり、強勢な長果枝新梢を除きほぼ伸長停止しました。

ウ 中生品種の収穫期と果実品質

「あかつき」の収穫盛りは7月28日で平年より8日早まりました。果実の大きさは、266g、糖度は13.1と平年並でした。

「まどか」の収穫始めは8月5日で平年より5日早まりました。収穫開始時の果実の大きさは429g、糖度は15.7（参考値）でした。

表1 ももの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	7/ 4	7/ 8	6/29	7/ 7	7/11	7/ 1	7/11	7/15	7/ 5	264	261	239	11.6	11.3	13.5
日川白鳳	7/ 4	7/16	7/ 2	7/ 7	7/19	7/ 5	7/11	7/22	7/ 9	241	230	244	11.7	10.7	13.3
暁星	7/19	7/23	7/13	7/22	7/27	7/16	7/25	7/31	7/20	216	215	211	13.9	12.7	14.8
ふくあかり	7/19	7/24	7/13	7/23	7/30	7/20	7/29	8/ 3	7/26	291	259	278	12.7	12.8	14.3
あかつき	7/25	8/ 2	7/23	7/28	8/ 5	7/25	8/ 1	8/10	7/30	266	265	229	13.1	12.6	15.1
まどか	8/ 5	8/10	8/ 2	未	8/14	8/ 4	未	8/19	8/ 8	<u>429</u>	333	350	<u>15.7</u>	13.2	17.1
川中島白桃	未	8/24	8/13	未	8/27	8/15	未	8/31	8/20	未	333	363	未	12.8	14.7
ゆうぞら	未	8/31	8/16	未	9/ 4	8/20	未	9/ 9	8/27	未	324	366	未	12.7	13.8

注) 平年値：1986年～2015年（「はつひめ」「ふくあかり」は2009年～2015年）の平均  
未は未確定。「まどか」の果実重・糖度は収穫始の値（下線部、参考値）。

(2) なし

ア 果実肥大

暦日比較では、「幸水」は縦径が72.9mmで平年比115%、横径が90.4mmで平年比115%と平年より大きく、「豊水」は縦径が72.4mmで平年比114%、横径が82.7mmで平年比115%と平年より大きい状況です。

また、生育日数による比較でも、「幸水」、「豊水」ともに平年より大きい状況です。

イ 「幸水」の成熟経過

満開後115日（8月15日）における成熟調査の結果は、果実硬度が7.1ポンドと平年並、糖度が10.9とやや低く、果皮中クロロフィル含量が11.1 $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ と平年並でした。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度も平年並でした。

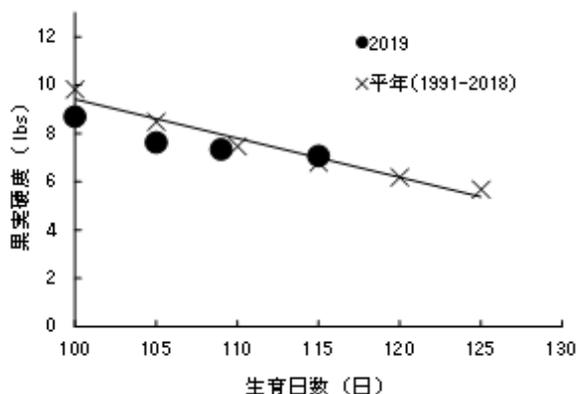


図2 「幸水」の果実硬度の推移

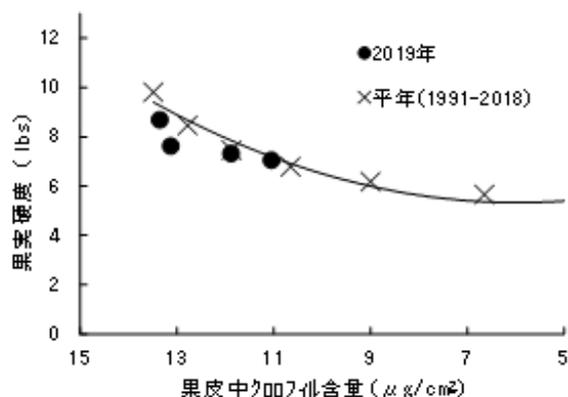


図3 「幸水」の果皮中クロロフィルと硬度の推移

(3) りんご

ア 果実肥大

暦日比較では、「つがる」は縦径が80.4mmで平年比113%、横径が90.2mmで平年比111%と平年より大きく、「ふじ」は縦径が67.4mmで平年比103%、横径が72.3mmで平年比101%と平年並の状況です。

また、生育日数による比較では、「つがる」は平年より大きく、「ふじ」は平年並の状況です。

イ 「つがる」の成熟状況

満開後108日（8月15日）における「つがる」の果実品質は、硬度が10.4ポンド、デンプ

ン指数は2.0、糖度は11.4、リンゴ酸は0.28g/100mlとなっています。

生育日数では果実硬度、果皮中アントシアニン含量は平年より低く推移し、デンプン指数は平年並、果皮中クロロフィル含量は平年より高く推移しています。

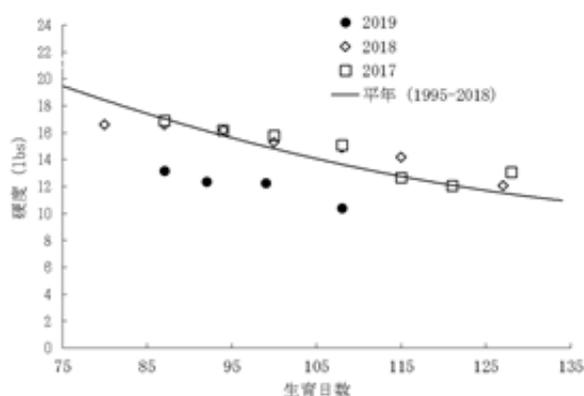


図4 「つがる」の果実硬度の推移

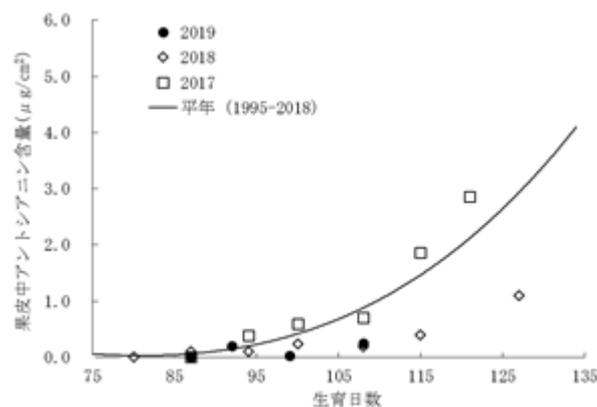


図5 「つがる」のアントシアニン含量の推移

#### (4) ぶどう

##### ア 「あづましずく」の収穫期と果実品質

長梢栽培における収穫始めは8月15日で平年より2日遅くなりました。

表2 「あづましずく」の果実品質

栽培方法	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
	長梢栽培	<u>9.5</u>	9.2	9.6	<u>17.8</u>	17.9	19.9	<u>0.46</u>	0.51	0.46	<u>38.9</u>	36.4
短梢栽培	—	8.7	9.5	—	17.6	19.4	—	0.54	0.44	—	33.8	44.2

注) 平年は2004年～2015年の平均値。

長梢栽培の収穫始の値(下線部、参考値)。

##### イ 「巨峰」の成熟状況

8月13日(満開後70日)現在の「巨峰」(無核栽培)の成熟状況は、果皮色が8.1、糖度が14.6、酒石酸含量が0.94g/100ml、糖酸比が15.6となっています。果皮色のカラーチャート値は平年より低く経過しましたが現在は平年並となり、糖度の上昇及び酒石酸の低下も進み平年値に近づいています。

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) 土壌の水管理

梅雨明け後は、降雨が局所的であり、果樹研究所では降水量がかなり少ない傾向にあります。今後も、降水量が少ない日が続く場合には、かん水を実施しましょう。

夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度ですので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施し、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くします。

ただし、ももでは、収穫直前の過度のかん水は糖度低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は収穫5～7日前までに実施しましょう。

水利の確保が困難なほ場では、スピードスプレーヤーや貯水タンクを利用したかん水も有効です。

## (2) も も

### ア 晩生品種の収穫

所内の「まどか」の収穫始めは平年より5日早くなりました。高温状況下において、収穫果の一部に軽度のミツ症や果頂部の軟化が確認されることから、今後収穫される晩生品種においても収穫が遅れないよう注意しましょう。

### イ 晩生種の収穫前管理

中生種の収穫時期から推定すると、晩生種の収穫期も平年より早まることが予想されま

す。今後、「川中島白桃」、「ゆうぞら」等については果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

特に、今年は果実肥大が良好であることから、強風や多雨による枝折れに注意が必要です。また、有袋栽培では、今後の天候が曇天となる場合に除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、着色管理作業を計画的に行いましょう。

## (3) な し

### ア 「幸水」収穫の留意点

「幸水」の品種特性として、収穫盛期の降雨などにより急激に土壤水分が増加した後は果皮クロロフィルや果実硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。収穫基準は、全農作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2を目安にし、適期収穫に努めましょう。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管しましょう。

## (4) りんご

### ア 早生種の収穫前管理

気温の高い日が続いていることから、日焼け果の発生が確認されており、葉摘みは日焼け果の発生状態を確認しながら徐々に行いましょう。

### イ 早生種の収穫

「つがる」の成熟は、果実硬度は平年より低め、着色は不良な傾向にあります。今後の気温が高温で推移する場合、果肉の粉質化が懸念されるため、気象の推移に注意しながら着色や果実硬度を考慮して適期収穫を心がけましょう。

## (5) ぶどう

### ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるので、果皮色や食味(特に糖酸比)、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

### イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。

さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いは丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

## 5 病虫害防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア リンゴ褐斑病、炭疽病

褐斑病及び炭疽病の感染、発病が増加する時期であるため防除を徹底しましょう。使用

薬剤は、8月20日頃にストロビードライフロアブル 3,000倍又はフrintフロアブル25 3,000倍を使用しましょう。

イ モモ灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病害虫防除指針参照）のいずれかを、除袋後の間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガ第4世代成虫の発生盛期は8月4半旬頃であり、第5世代の防除適期は8月5半旬頃と推定されます。本種が多発している園では収穫後の防除も徹底しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代成虫の発生盛期は8月4半旬頃であり、第4世代の防除適期は8月6半旬頃であると推定されます。特に、例年なしでの果実被害が多く、かつ近隣のもも園で芯折れが多い地域では防除を徹底しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。また、カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

エ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（令和元年8月13日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第4世代 誘殺盛期	第5世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月18日	8月21日	8月18日	8月25日
平年並	8月18日	8月22日	8月19日	8月26日
2℃低い	8月19日	8月23日	8月20日	8月29日

注) 起算日：モモハモグリガ7月28日、ナシヒメシンクイ7月27日  
(演算方法は三角法)

気象庁[営農活動に役立つ気象情報] <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>